

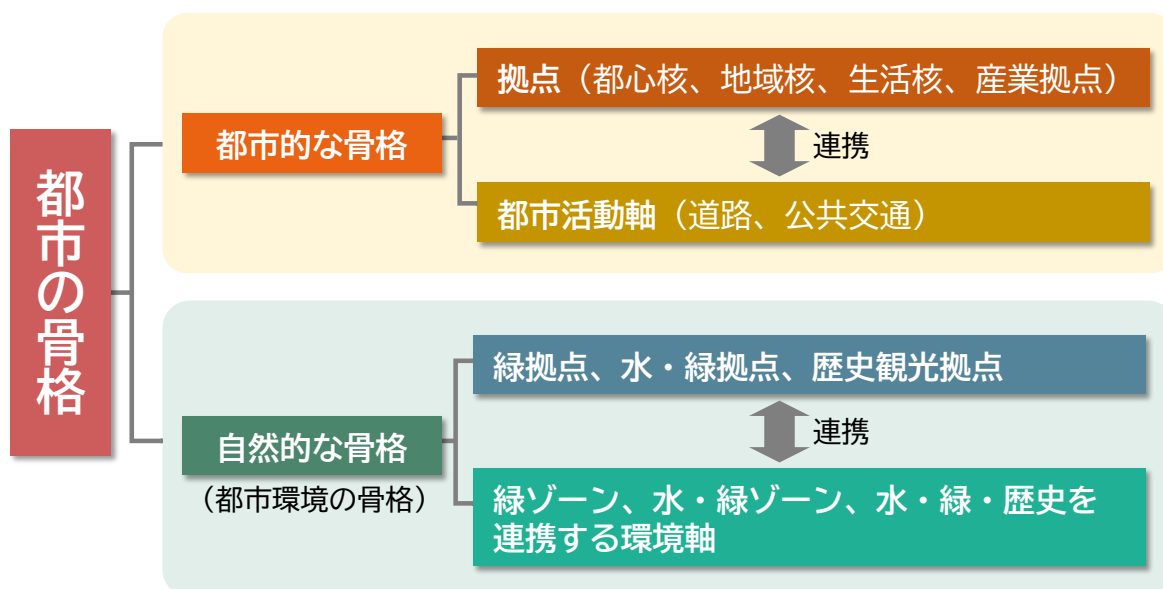
3. 将来のまちづくりのあり方

(1) 本市が目指す都市構造

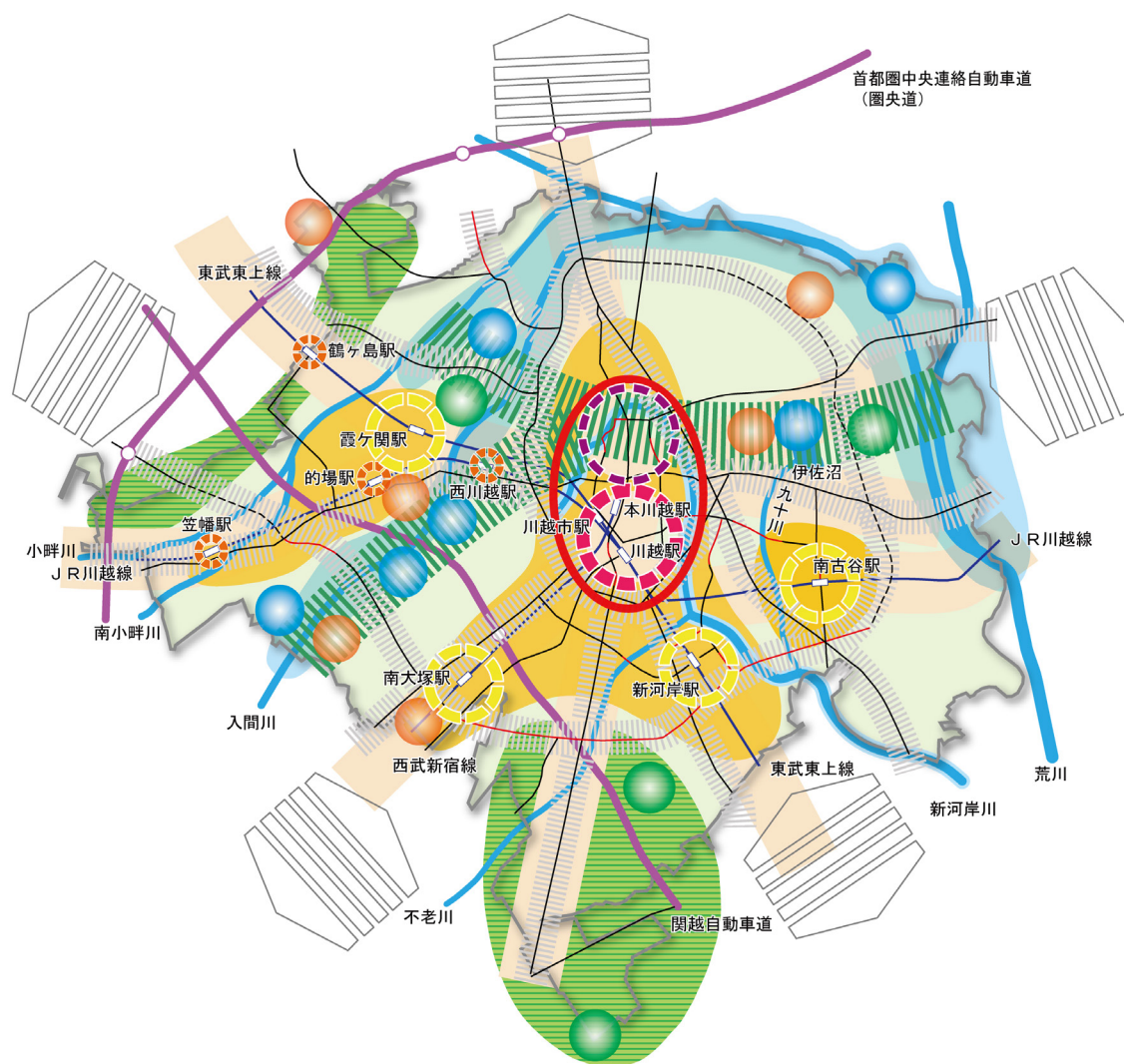
まちづくりの理念を踏まえ、将来都市像を実現するために本市が目指す将来都市構造を次のとおり設定します。

■多極ネットワーク型都市構造

地域特性や魅力を生かした都市機能をもつ「拠点」を適切に配置し、道路、公共交通によって各拠点を有機的に結びつける「都市的な骨格」を基本としつつ、豊かな自然・歴史環境を享受できる「自然的な骨格」を合わせた2つの骨格により、多極ネットワーク型都市構造の形成を推進します。



(2) 将来都市構造図



凡	例
	都心核
	都市的活動核
	歴史・水・緑核
	地域核
	生活核
	産業拠点

拠点

凡	例
	道路軸
	公共交通軸

都市活動軸

凡	例
	水・緑拠点
	緑拠点
	水・緑ゾーン
	緑ゾーン
	水・緑・歴史を連携する環境軸
	歴史観光拠点

都市環境の骨格

凡	例
	地域活動ゾーン
	自然共生ゾーン

ゾーン

凡	例
	高速道路・インターチェンジ
	鉄道・駅
	主要幹線道路
	〔赤線は未整備路線 (現道無し)〕
	主要幹線構想道路
	他都市との連携
	河川・沼

① 拠点の形成

歴史的な文化遺産と近代的な都市機能が集約されている地域を「都心核」に、交通条件等によって地域生活の中心として構成されている地域を「地域核」に、地域核を補完する生活拠点を「生活核」に位置付け、市民生活や都市活動を支えるため、望ましい土地利用の誘導と地域ごとの特性や魅力を生かした都市機能の集約化を目指します。

また、産業が集積している工業団地等を「産業拠点」として位置付けます。

1) 都心核

- ・都心核：三駅（川越駅、本川越駅、川越市駅）周辺から北部市街地に至る南北に長い中心市街地
- ・都市的活動核：三駅周辺
- ・歴史・水・緑核：北部市街地

- ・「都市的活動核」では、商業や業務等の機能の充実を図ります。
- ・「歴史・水・緑核」は商業、文化、観光等の機能を高めた魅力ある都市空間の形成を図ります。

2) 地域核

霞ヶ関・新河岸・南大塚・南古谷の各駅周辺

生活圏における、地域の顔としての商業、医療、福祉等を中心とした都市機能の充実を図ります。

3) 生活核

的場・笠幡・鶴ヶ島・西川越の各駅周辺

地域核を補完する生活拠点として地域コミュニティを育む拠点となる環境づくりを推進します。

4) 産業拠点

川越狭山工業団地、富士見工業団地、川越工業団地、川越第二産業団地、的場地区の工場集積地、川越増形地区産業団地、問屋町地区

工業団地の整備、拡充とともに、地域の経済循環を高め、中核となる企業の誘致、工業の集約化等による自立した産業構造の構築を図ります。

② 都市活動軸の設定

本市の自立性を高め、県南西部地域の拠点都市の形成に向けて、近隣都市および地域相互が円滑に交流できる有機的な連携が重要です。そのため、拠点相互をつなぎ、多量の人、物、情報が流れる都市活動軸を、立地状況や求められる役割に応じて“道路を中心とする道路軸”と“公共交通を中心とする公共交通軸”の2つの軸に分け、それぞれの特性に応じた強化を図ります。

1) 道路軸

活発な都市活動を支える幹線道路とその沿道で展開される都市機能の連続

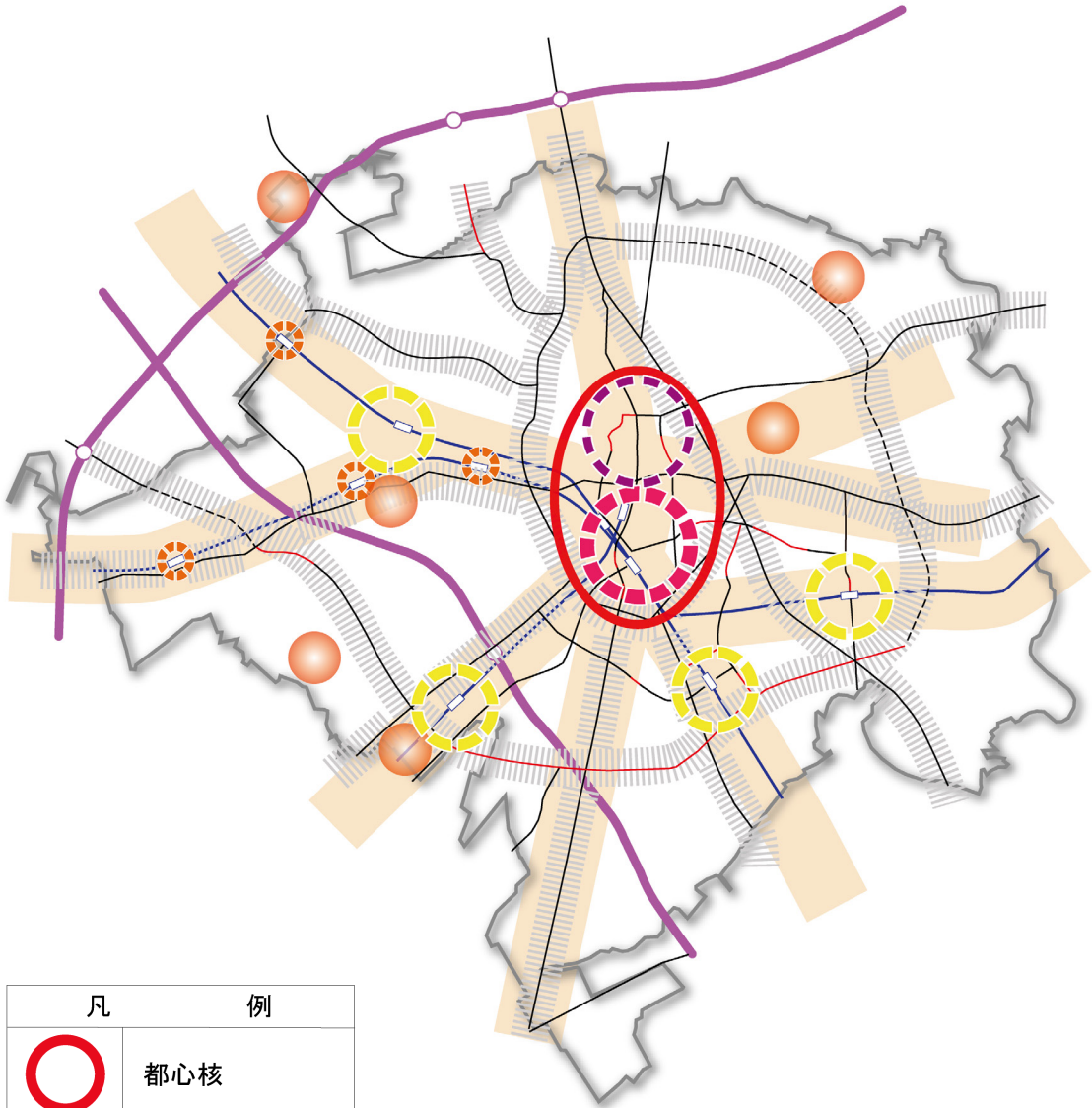
- ・放射状・環状に幹線道路を配置し、市内の円滑な移動、他都市との円滑な交流を可能にする道路軸を構築します。
- ・現在、本市の交通の骨格をなしている国道16号や国道254号に加え、（都）川越北環状線や（仮称）川越東環状線等の環状道路の整備によって、市外縁部で展開する多様な拠点を連絡する新しい道路軸の形成を進めます。
- ・国道や環状道路等の広域幹線道路を補完する幹線道路により交通の主軸を支え、他都市との連携強化を目指し、結節点としての都市機能の充実を進めます。

2) 公共交通軸

基幹的公共交通（3本の鉄道とバス路線）を媒介にしたまちのつながり

- ・多様な都市活動を支える鉄道とバス路線について、持続可能な交通ネットワークの構築を図ります。

拠点と都市活動軸



拠点

凡	例
	都心核
	都市的活動核
	歴史・水・緑核
	地域核
	生活核
	産業拠点

都市活動軸

凡	例
	道路軸
	公共交通軸

③ 都市環境の骨格づくり

大規模な樹林地、自然豊かな入間川や新河岸川の周辺、伊佐沼周辺等に、市民が交流し、うるおいある生活を支える都市環境の骨格となるゾーンもしくは拠点として位置付け、保全・活用を図ります。

1) 緑系

緑ゾーン：市西部丘陵の森林、福原地区の森林

緑拠点※：川越運動公園、河越館跡、（仮称）川越市森林公園計画地、
くぬぎ山地区

大規模な樹林地等、川越の恵まれた緑地を「緑ゾーン」、「緑拠点」として位置付け、保全・活用を図ります。

2) 水系

水・緑ゾーン：荒川、入間川を基軸としたもの、歴史性の高い新河岸川
を基軸としたもの

水・緑拠点※：伊佐沼、川越公園（川越水上公園）、なぐわし公園、
（仮称）池辺公園、安比奈親水公園、河川敷公園（芳野地区）

河川および河川沿いの自然豊かな地域を川越の輪郭となる自然の「水・緑ゾーン」、「水・緑拠点」に位置付け、親水空間として保全・活用を図ります。

3) 歴史系

川越を象徴する歴史観光拠点（新河岸川一帯の歴史と水と緑が彩る拠点）

歴史的町並みが残る北部市街地、喜多院等の寺社と新河岸川沿いの歴史的環境を有している地域を中心に、歴史観光拠点として位置付け、歴史資源の保全と活用およびネットワーク化を図ります。

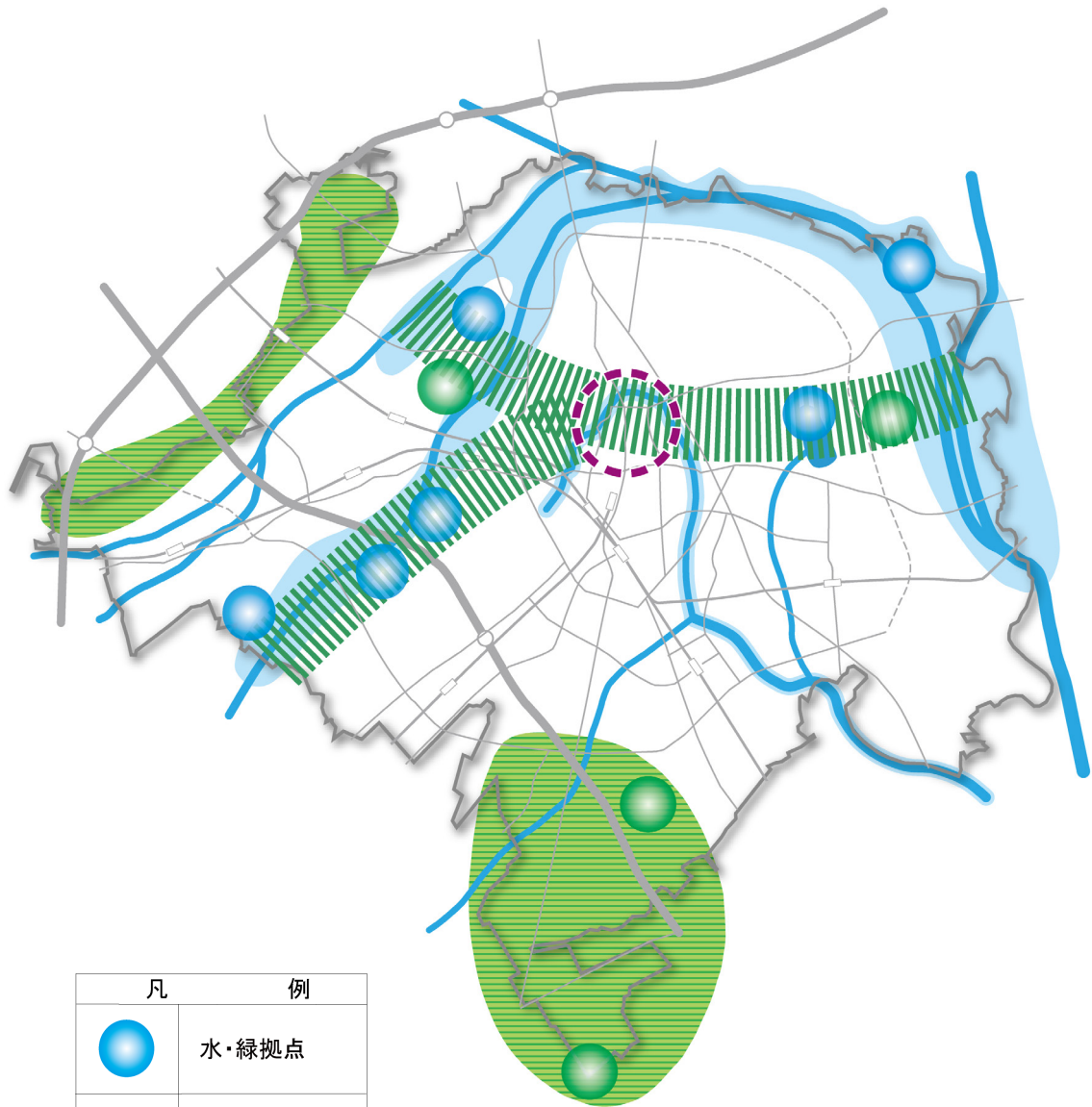
4) 水、緑と歴史を連携する環境軸

荒川、入間川から歴史・水・緑の拠点を連携する環境軸

本市の特徴である歴史や豊かな緑、水を有機的に連携する空間的つながりを環境軸として位置付け、道路整備を含めた周辺整備により快適なまちづくりを進めます。

※ 「水・緑拠点」と「緑拠点」： 地域別構想ではこれらをまとめて「水と緑の拠点」として記載

都市環境の骨格づくり



都市環境の骨格

凡	例
	水・緑拠点
	緑拠点
	水・緑ゾーン
	緑ゾーン
	水・緑・歴史を 連携する環境軸
	歴史観光拠点

④ 都市と自然が共存する2つのゾーン設定

1) 地域活動ゾーン

鉄道駅を中心とする地域の活動的な市街地のまとまり

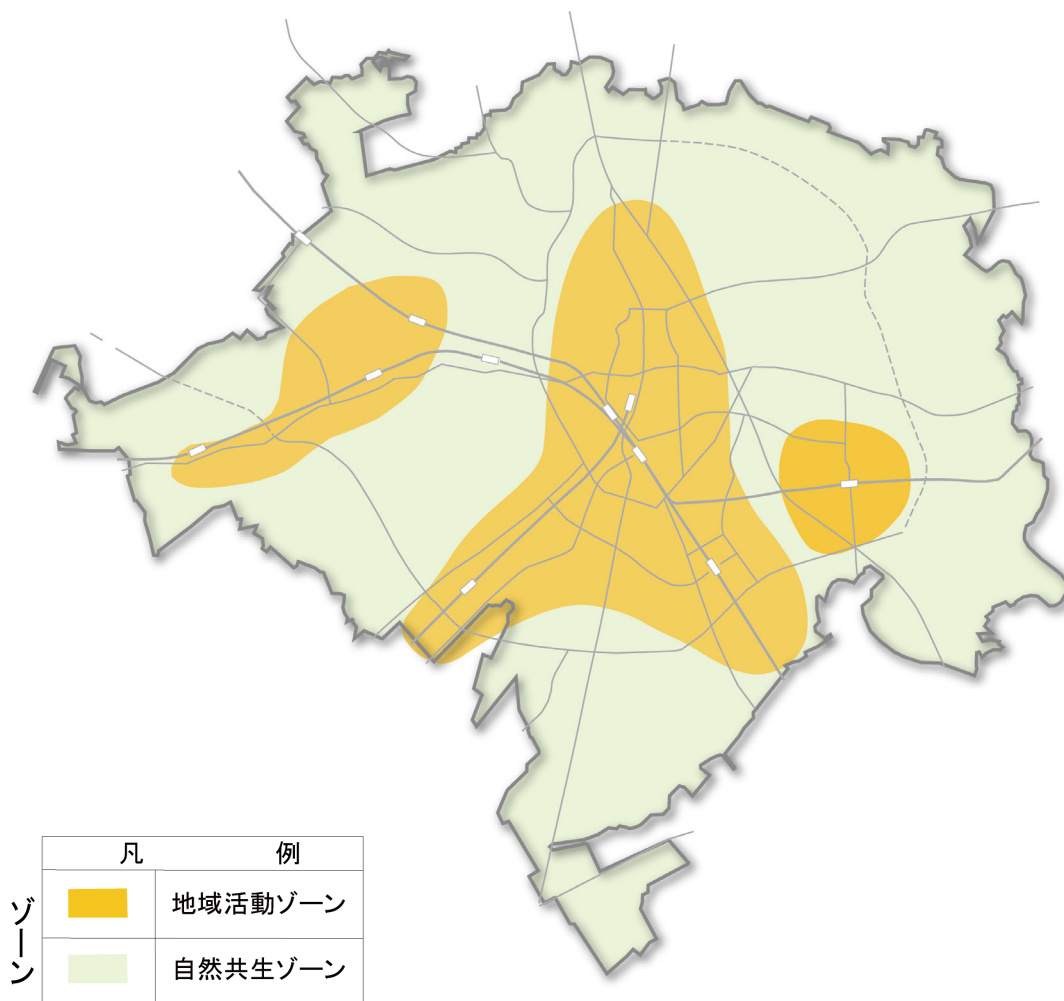
快適な都市活動ができる市街地整備や自然環境の保全・活用を一体的に推進します。

2) 自然共生ゾーン

市街地を包み込む自然環境のまとまり

自然と集落（都市）が共生する環境整備および自然環境を保全・活用します。

地域活動ゾーンと自然共生ゾーン



持続可能な開発目標（SDGs）の推進について

平成 27（2015）年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、誰一人取り残さない、包摂的な世界の実現を目指すことを理念に掲げ、先進国や開発途上国を問わず全ての国の取組目標として定められており、我が国においても国全体での取組が進んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



川越市都市計画マスタープランでは、都市計画部門における各施策の着実な推進と多様な主体との連携により、SDGs の達成に向けて取り組んでいきます。

川越市都市計画マスタープランが特に関連する目標

